

会よりのお知らせ

昭和59年度会費改訂について

会計幹事 小 椋 行 夫

本会の現行会費（A、B会員とも4,300円）は昭和52年度より7年間実施されてまいりました。会費収入を初めとする収入全体は、わずかながら伸びてはいるものの、諸物価の上昇および会誌「光学」の増ページで、年々繰越剰余金が減少しております。参考までに最近の実績を記しますと、昭和56年度は58万円の減少、57年度は143万円の減少となっており、今年度の予算に至っては321万円の減少が見込まれております。なお減少分は講習会引当金（56年度以前の学術基金の一部に相当）により補償しているのが現状です。

昭和59年度以後も諸経費の削減等の努力を図る所存ではございますが、年間約100万円の繰越剰余金の減少が見込まれており、このままでは本会の運営に重大な支障をきたす事態になってまいりました。

幹事会では最悪の事態を避けるべく、今年度初めより会費値上げについて慎重に審議を重ね、7月11日の幹事会において大幅な値上げをせざるをえないことと、また改訂会費について常任幹事会に一任するという承認をいたしました。その結果9月2日の常任幹事会において表1に示すような会費値上げの承認を得ました。なお同日の常任幹事会において会員資格基準の一部が改訂され、特別会員の規定が新規に制定されましたので、特別会員の会費も合わせて表1に記載いたします。

表1 改訂会費

	現行会費	改訂会費
個人会員（A、Bとも）	4,300円	6,000円
特別会員	—	7,000円
賛助会員	40,000円 (57年度改訂)	据置き

4月の総会で報告いたしました本年度の予算を再録するとともに、59年度から61年度までの収支見込試算を表2に示します。昭和58年度の321万円にのぼる繰越剰余金の大幅な減少は、57年度の「光学」出版に関する残金支払い分260万円を含んでいるためであります。この「光学」に関する260万円について説明いたしますと次の二つの理由があげられます。まず編集局を中央科学社から学会誌刊行センターに変更したために、従来次年度に支払っていた6号出版費用とその他の未支払い分を精算したためです。次に57年度は本会の設立30周年にあたるため、増ページの光学特集号を発行したことがあります。

59年度以後も諸経費の無駄な出費を抑える努力をいたしても、表2のような収支見込になる予定です。今後も収入増加について最大の努力を払うとともに、会誌「光学」のいっそうの充実および講演会講習会の活発化を図っていく所存でございます。

今回の大幅な会費値上げに関しては、会員の皆様に対してご負担をかけることは十分承知しておりますが、以上のような財政状況に鑑み、ご理解をいただくことをお願い申し上げます。

表 2 昭和 58 年～61 年度収支見込試算

項 目		58年(千円)	59年(千円)	60年(千円)	61年(千円)	
収 入	分 科 会 会 費	5,108	7,080	7,200	7,200	
	事業 収入	講 習 会 収 入	3,180	290	3,000	3,300
		別 刷 代 収 入	500	550	550	550
		雑 収 入	650	400	750	800
	広 告 料 収 入	1,200	1,200	1,200	1,200	
	回 収 不 能 引 当 金 戻 入	27	30	50	50	
	講 習 会 引 当 金 戻 入	3,502	1,000	1,000	1,000	
	維 持 引 当 金 戻 入	1,265	600	730	880	
	補 助 受 入	賛 助 会 費 還 元 金	3,520	3,520	3,520	3,520
		給 与 補 助 額	3,023	3,200	3,500	3,800
合 計		21,975	17,870	21,500	22,300	
支 出	管 理 費	給 料 手 当	3,043	3,200	3,500	3,800
		諸 印 刷 費	40	40	45	50
		会 議 費	150	160	170	180
		学 会 事 務 費	738	760	780	800
	講 習 会 事 業 費	諸 経 費	800	820	840	860
		給 料 手 当	32	35	35	35
		諸 印 刷 費	1,105	90	1,350	1,500
		会 議 費	507	15	520	530
	事 業 誌 出 版 費	諸 経 費	1,231	200	1,400	1,500
		学 会 事 務 費	37	0	40	40
		給 料 手 当	1,480	1,500	1,500	1,500
		諸 印 刷 費	7,594	5,800	5,800	6,100
	事 業 其 他 費	諸 経 費	1,650	1,600	1,700	1,900
		発 送 通 信 費	1,215	960	980	1,000
		研 究 班 補 助 金	160	200	200	200
合 計	論 文 賞 経 費 他	93	60	60	60	
	回 収 不 能 引 当 金 戻 入 (A)	500	700	700	700	
	講 習 会 引 当 金 戻 入 (B)	1,000	1,000	1,000	1,000	
	分 科 会 維 持 引 当 金 戻 入 (C)	600	730	880	545	
合 計		21,975	17,870	21,500	22,300	
繰 越 剰 余 金 (A+B+C)		2,100	2,430	2,580	2,245	
前 年 度 と の 差		△3,206	330	150	△335	

○ 昭和59年度幹事選挙投票のお願い

昭和59年度光学懇話会幹事の選挙を行ないますので、本号綴込みの葉書で投票されるようお願いいたします。投票締切は昭和58年11月21日(月)です。前号で立候補者を募集しましたが、立候補された方はありませんでした。綴込みの葉書には下記の幹事会からの推薦候補者の氏名が印刷してあります。もちろんそれ以外の方で適任と思われる方に投票されても結構です。推薦候補者のうち新幹事として適任と思われる方に○をつけ、○をつけなかった数だけ下欄に適任と思われる方の氏名をご記入ください。ただし下記の留任の幹事以外の方にしてください。

● 幹事会からの推薦候補者

幹事会では役員選挙その他に関する内規(「光学」第11巻第5号(1982年10月)記載)により下記の25名の方々を昭和59年度新幹事候補者として推薦いたします。

石原 聰(電 総 研) 左貝 潤一(武蔵野通研)
 一岡 芳樹(阪 大 工) 佐久間伸夫(リ コ ー)
 伊藤 雅英(東 大 生 研) 鈴木 健夫(NHK 基礎研)
 岩田 耕一(阪 府 大 工) 世古 淳也(慶 応 大 工)
 梅垣 真祐(東 大 工) 武田 光夫(電 通 大)
 大津 元一(東 工 大 工) 得丸 祥(ミ ノ ル タ)
 大塚 喜弘(北 大 工) 野口 勝(富士フィルム)
 大坪 順次(機 械 技 研) 日江井栄二郎(東京天文台)
 小野 雄三(日 本 電 気) 藤原 史郎(筑波大物工系)
 海津 優(国土地理院) 松尾 博文(旭 光 学)
 河原 哲夫(東 海 大 工) 三品 博達(千 葉 大 工)
 小池 雅人(島津製作所) 安田 賢司(富士写真光機)
 小宮 康治(東 京 光 学)

● 留任の幹事

光学懇話会規則(「光学」第11巻第4号(1982年8月)記載)により下記の25名の方々は昭和59年度は留任となります。

稲垣 雄史(富 士 通 研) 久保田敏弘(京 都 工 繊 大)
 岩本 明人(東 芝 総 研) 小島 忠(小 西 六)
 大江原弘昌(ヤ シ カ) 近藤 英樹(日 写 研)
 大頭 仁(早 大 理 工) 今野 邦男(日 本 光 学)
 大和田芳子(計 量 研) 佐藤 平八(防 衛 大)
 片岡 慶二(日 立 中 研) 佐柳 和男(キ ヤ ノ ン)
 菊池 和郎(東 大 工) 高島 幸史(東 北 大 科 研)
 菊池 恭孝(ユ ニ オ ン) 滝澤 國治(NHK 基礎研)
 北出 篤夫(名 大 工) 中島 俊典(理 研)

布下 正宏(三菱電機中研) 南 茂夫(阪 大 工)
 畑田 豊彦(東京工芸大) 峯本 工(神 戸 大 工)
 兵藤 直規(小 原 光 学) 山下 伸夫(オリンパス)
 本田 捷夫(東 工 大 工)

○ 第111回幹事会

昭和58年7月11日(月)に東京、虎の門の第9森ビルにおいて開催され、講演会・講習会の計画、「光学」の編集と光学シンポジウム特集号の取扱い、会費改訂、F委員会答申などについて報告と審議が行なわれた。

○ 昭和58年度第2回常任幹事会

昭和58年9月2日(金)に上記の第9森ビルにおいて開催され、講演会・講習会の計画、「光学」の編集、次年度幹事候補、会費改訂、F委員会答申などについて報告と審議が行なわれた。

○ 昭和58年度第2回編集委員会

昭和58年7月15日(金)に東京本郷の学士会分館において開催され、「光学」各号の編集状況と企画、光学シンポジウム特集号の取扱いなどについて報告と審議が行なわれた。

○ 第29回光学四学会連合講演会報告

「光に関連する計測の最近の話題」というテーマで、昭和58年7月6日(水)に東京、お茶の水の日本化学会講堂で行なわれた。参加者は関係者も含め102名であった。今年は例年と変わり、1日ということで実行された。

歴史の長いこの連合講演会の今後の運営については幹事会において討論を継続してきたが、以下のごとき方針で活性化をし、参加学会の利益になるよう努力することになっている。

- (1) できうればこれからの複数回について“色彩”関連テーマでの活動をする。
- (2) 講演会の開催時期は秋にずらせる。
- (3) 講演会のテーマに関連ある学会またはその専門委員会に協賛を働きかける。
- (4) 各学会からの幹事は、テーマに適切な方に代えることも考える。

四学会に共通なテーマはほかにも考えられるが、現在、色彩の実用化で世の中のニーズが盛り上がっていること、またこの面で四学会としては関連他学会に重要な寄与ができると考えられることなどから、色彩を選んだ。

(幹事 不破, 佐柳)

○ 昭和 58 年度光学懇話会関西講演会のお知らせ

前号でお知らせしたとおり、昭和 58 年 10 月 28 日(金)に兵庫県尼崎市の電子技術総合研究所大阪支所において見学会を兼ねて開催されます。多数の皆様が参加されるようお願いいたします。

○ 第 14 回画像工学コンファレンスのお知らせ

昭和 58 年 12 月 8 日(木)、9 日(金)に東京大手町の農協ホールにおいて開催されます。詳細は本号別掲のプログラムをご覧ください。お早めに参加申込みをしてください。締切は 11 月 15 日(火)です。

○ 微小光学研究グループよりのお知らせ

● 第 9 回微小光学研究会の報告

昭和 58 年 7 月 27 日(水)に東京六本木の東京大学生産技術研究所において 45 名の参加者のもとで開催しました。今回は CLEO '83 の報告と微小光学の基礎というテーマで理論関係の研究報告を行ないました。資料は微小光学研究グループの機関誌 Micro-Optics News Vol. 1, No. 2 に掲載しております(ご希望の方は庄野(03-307-2888 ex 244)までご連絡ください)。研究会のあと、レーザ顕微鏡、三次元写真、その他の見学会を行ないました。(青学大理工 庄野裕夫)

○ 光計測研究グループよりのお知らせ

● 第 9 回光計測研究会の報告

昭和 58 年 7 月 11 日(月)に埼玉県和光の理化学研究所において 29 名の参加者を得て開催された。講演は「位相変調粗面干渉法による変形・振動の自動解析」(理研, 中橋末三)および「車室内形状測定器の開発」(豊田中研, 杉山聰)の二つが行なわれ、測定精度、装置の小型化、測定範囲の拡大などに関して質疑討論が行なわれた。講演終了後に太陽光エネルギー研究施設(主に光合成実験)と光学計測研究室(干渉計測, 画像処理, 光音響法)の見学を行なった。

● 第 10 回光計測研究会の報告

昭和 58 年 8 月 29 日(月)に東京六本木の東京大学生産技術研究所において 24 名の参加者を得て開催された。講演は「光ファイバー・ジャイロについて」(東大境界領域研, 保立和夫)および「光ファイバーの測定技術」(電電公社武蔵野通研, 立田光廣)が行なわれた。それぞれに対して、偏波面回転の影響、ヘテロダイン法による誤差、および単一モード・ファイバーの規格、端面状

態の影響などに関して活発な討論が行なわれた。

● 第 11 回光計測研究会の予定

日 時: 昭和 58 年 10 月 31 日(月) 14:00~17:00

場 所: 東京大学生産技術研究所第一部輪講室
東京都港区六本木 7-22-1

演 題: 1. 光波測距に関して

佐藤 裕(日本光学)

2. ジャイアント・パルス YAG レーザーによる高炉炉頂プロフィールの測定

藤森 康朝(東芝生産技研)

参加費: 300 円

問合せ先: 〒351 埼玉県和光市広沢 2-1

理化学研究所光学計測研究室 山口一郎

電話 0484-62-1111 内線 3242

○ 光学懇話会協賛のシンポジウムのお知らせ

● 理研シンポジウム「光応用技術の最近の動向」

日 時: 昭和 58 年 11 月 18 日(金) 10:00~17:00

場 所: 理化学研究所(東武東上線と光市駅下車)

主 催: 理化学研究所光学計測研究室

演 題: ①スペックル応用計測の進展(理研, 山口一郎), ②レーザーによる回転物体の振動解析(啓明学園, 今野 博), ③ヘテロダイン・ホログラフィによる干渉計測法(理研, 中島俊典), ④ビデオディスクにおける光学技術(日立中研, 有本昭), ⑤超鏡面の加工と計測(阪大工, 難波義治), ⑥X線干渉法(計量研, 中山貫), ⑦シンクロトロン放射とその利用(電総研, 西師毅), ⑧計算機スペックル干渉計による変形・振動解析(理研, 中橋末三)

参加費: 無料

問合せ先: 〒351 埼玉県和光市広沢 2-1

理化学研究所光学計測研究室 中島俊典

電話 0484-62-1111 内線 3242

○ 国際会議のお知らせ

● Symposium Optika '84

期 日: April 24-27, 1984

場 所: Budapest, Hungary

主 催: The Section for Optics of the Optical, Acoustical and Filmtechnical Society, Hungary

テ ー マ: Physics and technology of lasers, Design and testing of coherent optical components and devices, Application of lasers in science

and measuring engineering, Coherent optical methods for data processing and data transfer, Lasers in medicine and biology

アブストラクト締切: November 15, 1983

問合せ先: Dr. G. Lupkovics

Secretary of Organizing Committee Optika '84

Optical, Acoustical and Filmtechnical Society

Anker köz 1, H-1061 Budapest, Hungary

国内問合せ先: 〒227 横浜市緑区長津田町 4259

東京工業大学工学部像情報工学研究施設

辻内順平

電話 045-922-1111 内線 2083

● Optics and Solar Energy

期 日: May 15-18, 1984

場 所: Kroměříž, Czechoslovakia

主 催: Czechoslovak National Committee on Optics

テ - マ: Collection of radiation, Optical properties of materials, Monitoring and regulation of solar systems, appliances

原稿締切: December 31, 1983

問合せ先: Dr. Bohumil Nábělek

Secretary of Czechoslovak National Committee on Optics

c/o Physical Institute of Czechoslovak Academy of Sciences, Dpt. of Applied Optics, Na Slovance 2, 180 40 Praha 8-Libeň, Czechoslovakia

国内問合せ先: 東工大 辻内順平 (住所等は左記参照)

● Progress in Optical Physics (Satellite conference to ICO-13)

期 日: August 15-17, 1984

場 所: University of Melbourne, Australia

共 催: The Australian National Committee for Optics

The Australian Optical Society

テ - マ: Astronomical optics, Thin films and fiber optics, Fourier optics and imaging, Non-linear optics

アブストラクト締切: February 15, 1984

問合せ先: Dr. I. J. Wilson

CSIRO Division of Chemical Physics

PO Box 160, Clayton, Vic., Australia 3168

国内問合せ先: 東工大 辻内順平 (住所等は左記参照)

正 誤 表

第12巻第3号に著者より下記のとおり訂正がありましたのでお知らせいたします

	誤	正
181 ページ右 下5行目	X線照度	X線強度
182 ページ左 下2行目	像の解明度は	像の鮮明度は
184 ページ左 上21行目	S と X	S を X
185 ページ左 下8行目	静止させる微小	静止させると微小
188 ページ左 上1・2行目	Go-lgi	Gol-gi

編 集 後 記

本号は、光センサと光センサを応用した技術の特集として解説をまとめてみました。各種計測の自動化、また実時間での計測や制御に、光センシング技術が重要な役割を演じていることはよく知られています。近年の半導体デバイスや光ファイバーなど、素子技術の発展にともない、この分野はさらに応用面を拡げていくものと思われます。“最近の技術から”でも応用例について取り上げてみました。

こうした光センサあるいは光計測はその測定対象、測定方法に応じて多種多様なものがあり、とても数編の解説記事で網羅できるものではありませんが、最近の動向を知るうえで役に立つ内容であると思います。

また、巻頭言をいただいた丹羽先生をはじめ執筆していただいた方々が、電子あるいは制御工学を専門とされる方が多いのも本号の特徴かと思えます。一方こうした企画で、光学を専門とされる執筆者が大いに輩出していくことも期待したいものです。

(南, 永田)

—— 第14回画像工学コンファレンス ——

画像工学コンファレンスは1970年の発足以来、関連学会・研究会の共通の研究発表、討論の場として、日本の画像関係の研究開発の発展に大いに寄与してまいりました。本年も新たな発展を期し、次のような内容で第14回画像工学コンファレンスを開催することに致しました。

- (1) 関連各分野の第一人者による招待講演
- (2) 「世界コミュニケーション年」にちなんだ特別セッションとデモンストレーション
- (3) 一般公募講演
- (4) コーヒーを飲みながら討論できるポスタセッション

なお、懇親会も行ないますが、さらに'83国際画像機器展が併催されますので、関連分野の方々の積極的なご参加を期待いたします。

期 日 : 昭和58年12月8日(木) 9:20~18:10 (懇親会18:30~20:30)
9日(金) 9:00~18:40

会 場 : 農協ホール(東京・大手町・農協ビル9階) '83国際画像機器展と併催

参加費 : 加盟学会員 8,000円

学生会員 4,000円

会 員 外 9,000円

懇 親 会 費 3,500円

申込方法 : (1) 申込書に必要事項を記載し、参加費をそえてお申込み下さい。

(2) 申込期限 11月15日(火)

(3) 申 込 先 〒105 東京都港区芝大門2-3-14 一松ビル1号館402号
「第14回画像工学コンファレンス事務局」TEL 03-433-2544

送金方法 : 申込書と共に、現金書留によりお送り下さい。参加費の他、懇親会参加ご希望の方は、会費もあわせてお送り下さい。

論 文 集 : 当日会場でお渡しいたします。当日欠席の方にはコンファレンス終了後郵送いたします。また論文集のみご希望の方には8,000円でコンファレンス終了後郵送いたします。

主 催 : 第14回画像工学コンファレンス実行委員会

(担当:電子通信学会・画像工学・パターン認識と学習・両研究専門委員会)

加盟学会・委員会 : 応用物理学会・光学懇話会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光量子デバイス技術委員会、日本ME学会・医用画像のデジタル処理研究会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、電子通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識と学習研究専門委員会。

'83国際画像機器展 期 日 昭和58年12月7日(水)~9日(金)

会 場 農協ビル8階・国際展示場

主 催 日本画像・計測機器協議会

電 話 03-367-0571

入場料 無 料

プ ロ グ ラ ム

第1日 12月8日(木) 9:20~18:10

- 開会の辞(9:20~9:30) 榎本 肇(実行委員長)
1. 特別セッション「画像による新しいコミュニケーション」(9:30~12:20) 座長 南 敏(工学院大)
- 1-1 画像とコミュニケーション(招待講演) 平山 博(早大)
- 1-2 画像通信サービスの新しい展開(招待講演) 松岡 毅(横須賀通研)
— ビデオテックスを中心に —
- 1-3 テレマテックサービスにおけるドキュメント通信(招待講演) 山崎泰弘(KDD)
— ファクシミリおよびミックスモード通信を中心に —
- 休憩(10分)
- 1-4 放送における画像通信サービス(招待講演) 柳町昭夫(NHK)
— 文字多重放送を中心に —
- 1-5 ハードコピー媒体による画像コミュニケーション(招待講演) 古田春男(凸版印刷)
- ポスタ講演題目紹介(12:20~12:30) 坂内正夫(東大生研)
- 昼休み(12:30~13:20)
- 特別セッション関連デモンストレーション(13:00~16:30) 第3中会議室(8階)
2. ポスタセッション(1)(13:20~14:50) 第1・第2中会議室(8階)
- 2-1 限られた領域のみを対象とするCT像再生の可能性
白石昭彦・大山永昭・本田捷夫・辻内順平(東工大)
- 2-2 SPECTにおけるコリメータ開口特性の補正
岩田 敏・尾川浩一・中島真人(慶大), 油田信一(筑波大)
- 2-3 アンテナを用いた非接触温度分布測定のための縦断層イメージング
青山幸二・中島真人(慶大), 油田信一(筑波大)
- 2-4 空間領域フィルタによるデジタルX線画像復元 渡辺 睦・景山聖之(東芝総研)
- 2-5 3次元画像の処理と分類 渡辺弥寿夫(金沢工大), 榎本 肇(東工大)
- 2-6 FORTH+CORE;移植性のよいグラフィック・ソフトウェア
尾上守夫・伊藤 隆(東大生研)
- 2-7 二項関係モデルを用いた図面データベース構成法 若山忠雄(横須賀通研)
- 2-8 ワールドビュー/ユーザビューを用いた医用画像データの検索
小森 優・湊小太郎・小出治敏・平川顕名(京大病院), 山崎哲夫・桑原道義(京大工)
- 2-9 QBEによる検索機能を利用した画像データ管理システム
八村広三郎(京大), 浅沼引一・宮下豊勝(京都工芸大), 杉田繁治(民族博)
- 2-10 画像の冗長性を利用した二値線図形の誤り訂正方式 美濃導彦・坂井利之(京大工)
- 2-11 カラーディザ画像の符号化 加藤茂夫・安田靖彦(東大生研)
- 2-12 R.G.B信号の符号化 山口博久(KDD)
- 2-13 マイコンによる高品質明朝体ひらがな字形の生成 高木幹雄・坂元宗和(東大生研)
- 2-14 知能ロボットによる変形毛筆文字の生成
三重野博司・秋本 豊・平沢成幸・山崎賢二郎(東京理大)
- 2-15 イメージ・ターミナルのOMR機能 後田龍之・貴田益吉(日本IBM)
- 2-16 コンピュータ・ネットワーク内での画像情報の交換 林 恭正(日本IBM)
- 2-17 マイコンによるICパターン設計ワークベンチ 尾上守夫・仲西 正(東大生研)
- 2-18 マイクロコンピュータを利用した盲人用個人情報システム 浜田 喬・茅野昌明(東大生研)

3. 医用画像(14:50~16:05) 座長 井上多門(東芝総研)
 3-1 NMR画像の現状と将来(招待講演) 遠藤真広(放医研)
 3-2 不均一な静磁場を用いたNMR-CT 川中 彰・高木幹雄(東大生研), 中山 淑(上智大)
 3-3 シングル・フォトン・エミッションCTのための減衰補正法
 諸角 建・尾川浩一・中島真人(慶大), 油田信一(筑波大)
- 休憩(16:05~16:10)
4. 画像生成(16:10~18:10) 座長 辻 三郎(阪大)
 4-1 コンピュータ・グラフィックス・ソフトウェアの標準化(招待講演) 木村文彦(東大工)
 4-2 円表示アルゴリズムの統一 曾根光男・尾上守夫(東大生研)
- 休憩(5分)
- 4-3 3Dモデル記述システムの試作 久家秀樹(三菱電機)
 4-4 カラーLUT書替動画データの生成法 間瀬健二(横須賀通研)
 4-5 手話生成システム 河合秀夫・田村進一・田中幸吉(阪大)
- 懇親会(18:30~20:30) 第1中会議室(8階)

第2日 12月9日(金) 9:00~18:40

5. ハードイメージ(9:00~10:35) 座長 山口隆司(千葉大)
 5-1 写真画像の安定保存と変退色評価(招待講演) 藤井悦男(化技研)
 5-2 スリットジェット記録方式におけるインク噴出特性
 樋口和人・一之瀬進(横須賀通研), 杉原茂雄(茨城通研)
 5-3 2色レーザプリンタプロセス 飛田正行・田代順一・遠田俊雄・中島淳三(富士通研)
 5-4 多重熱転写記録によるカラーTV画像の記録 大西 勝・斎藤雅行・岡賢一郎(三菱電機)
- 休憩(10:35~10:45)
6. 画像の学術応用(10:45~11:20) 座長 坂田晴夫(NHK)
 6-1 民族学と画像(招待講演) 杉田繁治(民族博)
- 休憩(11:20~11:25)
7. 視覚情報(11:25~12:20) 座長 栗田正一(慶大)
 7-1 ネコの視覚系における情報処理(招待講演) 斎藤秀昭(NHK)
 7-2 テレビジョンシステム評価用テストチャートのデジタルデータ化
 日下秀夫・湯山一郎(NHK)
- ポスタ講演題目紹介(12:20~12:30) 西澤台次(NHK)
- 昼休み(12:30~13:20)
8. ポスタセッション(2)(13:20~14:50) 第1・第2中会議室(8階)
 8-1 インクジェットによるカラー記録法の検討 都築光雄・白濁 徹(日電)
 8-2 多機能レーザ・ビームプリンタによる画像表現法
 村山 登・鈴木宏一・佐藤 敬・伊藤正博(リコー), 尾上守夫・石塚 満(東大生研)
 8-3 濃度変調可能な感熱転写インクシート
 阿部隆夫・堀田祐治・北村繁寛・中村正樹(小西六写真)
 8-4 昇華型感熱記録方式 田口信義・清水時彦・入江宏之(松下電器)
 8-5 TV画像ハードコピー化用プリンタにおける信号処理
 奥田治雄・村上敬之助・大野 信(NHK)
 8-6 結合発生マトリックスとその統計的な情報量にもとづく擬似濃淡画像の画質評価について
 飯塚昌之(名工大), 武田浩二(ソニー)
 8-7 URAコーデッドアパーチャカメラの開発研究
 仁木秀明・山田 淳・山中正宣・山中龍彦・山中千代衛(阪大)
 8-8 並列光ロジックアレイプロセッサ 谷田 純・一岡芳樹(阪大工)
 8-9 パイプライン型実時間演算用ハードウェアを中心に構成した画像演算処理装置の試作
 杉本敏司・一岡芳樹(阪大工), 松岡克典(大工試)

- 8-10 補間フィルタを用いた走査線変換装置 藤村隆一・森下政信・山崎隆宏・岩井花邦男・林 秀行(日電ホーム), 西澤台次・田中 豊(NHK)
- 8-11 高性能工業用グラフィックディスプレイシステム 辻 秀一・西出政司・大原 彰(三菱電機)
- 8-12 TeO_x薄膜を用いた消去機能つき光ディスク
竹永睦生・山田 昇・大原俊次・西内健一・櫻原俊昭・中村 英(松下電器)
- 8-13 気象衛星(NOAA)画像の幾何学的ひずみ補正 高木幹雄・折原良治・檜山孝道(東大生研)
- 8-14 地形の傾き補正を加えた航空写真対からの等高線抽出の自動化
辻内順平・本田捷夫・大山永昭・細井雅幸(東工大)
- 8-15 固体イメージセンサを用いた交通流計測システム 高羽禎雄・関根富美(東大生研)
- 8-16 偏光を用いた光沢物体の表面状態の認識 寺師泰代・白井良明・越川和忠(電総研)
- 8-17 パソコンによる干渉縞の画像処理 梅崎栄作・玉木 保・高橋 賞(日本工大)
- 8-18 年輪の画像処理 曹 景文・尾上守夫(東大生研)
- 9. 光 技 術(14:50~15:25) 座長 豊田浩一(理研)
- 9-1 新しいマイクロフレネルレンズ(招待講演) 西原 浩(阪大)
- 休 憩(15:25~15:30)
- 10. 固体撮像(15:30~16:25) 座長 木内雄二(農工大)
- 10-1 カラー固体撮像技術の動向(招待講演) 長原脩策(日立中研)
- 10-2 画像メモリを内蔵する固体撮像素子 安藤隆男・鈴木裕己・山崎宏之(静大)
- 休 憩(16:25~16:30)
- 11. 画像計測(16:30~18:30) 座長 花木真一(日電)
- 11-1 リモートセンシング画像処理の最近の動向と展開(招待講演) 下田陽久(東海大)
- 11-2 人工衛星データ収集・解析システム 高木幹雄・村井俊治・大熊直彦・折原良治(東大生研)
- 休 憩(5分)
- 11-3 熱線CTによる火炎内温度分布の計測
内山博喜・白 承権・中島真人(慶大), 油田信一(筑波大)
- 11-4 粗面干渉法による変形量の自動解析 中橋末三(理研)
- 11-5 超 LSI 用ウエハの自動フラットネステスターの開発
谷田貝豊彦(筑波大), 稲葉 茂・中野秀樹(SGインストル), 鈴木正根(富士光機)
- 閉会の辞(18:30~18:40) 第15回画像工学コンファレンス実行委員長

第 14 回 画像工学コンファレンス参加申込書

月 日

氏 名

所属学会(所属するすべての学会に○印を付けてください)

応物 テレビ 電気 ME 画像電子 写真 電子写真 写真測量
情報処理 印刷 レーザー 電子通信

勤 務 先 〒

連 絡 先 (電話番号)

懇 親 会(いずれかに○印を) 参 加 不参加 未 定

送 金 額

項 目	送 金 額
参加費 { 加盟学会員 8,000円 } { 学生会員※ 4,000円 } { 会 員 外 9,000円 }	
懇親会費 (3,500円)	
合 計	

※ 大学院学生を含む